

# HONMOKU TIMES

記憶する街、本牧。新たな記憶が生まれるとき。

# HONMOKU ART PROJECT

本牧アートプロジェクト 2014  
11/22[土]・23[日]・24[月・祝]

Photo by Hideo Mori

[honmoku-art.jp](http://honmoku-art.jp)

「本牧アートプロジェクト」は、独自の文化を育んできた横浜・本牧エリアを舞台としたプロジェクトです。戦後から37年間米軍のベースキャンプがあった頃、そしてベース跡地に大型複合ショッピングセンター「マイカル本牧」が注目を集めた90年代。それぞれが強烈な記憶を今も抱き続けている本牧で、多様なアートを通して新たな街の記憶を創り出す試みが「本牧アートプロジェクト」です。2回目となる2014年は、本牧の人々に惜しまれながらも閉場した旧・映画館をメイン会場に、横浜の都市機能を支える港湾エリアにも展開します。音楽、演劇、ダンス、映像、それぞれにジャンルの境界を越えて活動するアーティストやクリエイターたちによるパフォーマンスやインスタレーションが登場します。鉄道のない街、本牧。バスで街をめぐり、歩くことで見えてくる日常／非日常の境界線を体験してください。



本牧山頂公園から工場地帯を臨む

# HONMOKU on site

「本牧アートプロジェクト2014」に参加するアーティスト/クリエイターによるインタビュー&コラム

## 1 テラミチ健一郎

『メリーゴーランドがやってきた!』

→会場：本牧せせらぎ公園

——どうしてメリーゴーランドをつくり始めたんですか？

2009年に、営んでいる造形会社の10周年を記念して、何か世の中が明るくなるような普遍的なものをつくろうと思っただけなんです。世界がぐるぐる回ります……。それでメリーゴーランドに行き着いた。それまでは受注の仕事ばかりだったんですけど、それを機に、自主的な活動も始めました。

——このメリケン(メリーゴーランド研究所の愛称)もその時期にできたんですか？

その頃は元町にスタジオがあったんですけど、メリーゴーランドの研究開発用に第2スタジオを探してたんです。もともと実家が本牧で、ちょうどここを取り壊すっていう話を聞いて、直せるから使わせてくれと言って戻ってきたんです。ここ、古いんですよ。役者の赤木圭一郎が

住んでいたこともあるんです。戦後すぐに建った建物で、築70年くらいですかね。今のマイカル(イオン)あたりが米軍住宅だったんですけど、この家は彼らが日本人妻を住ませるための別宅だったんです。隠れ家だから、道から見えちゃいなくて、路地のさらに裏の路地にある。こういう物件はまだ本牧に残ってますよ。本当に本牧は、外国みたいな町並みでした。

僕の曾祖父は根岸競馬場でジョッキーになって、引退してから厩舎としてこのあたりを使ってたんです。本牧は「牧」というだけあって僕が小さい頃は牧場がありました。いい水が出るんですって。今もそこ、井戸残ってますけどね。

——「馬」がご縁の不思議なつながりですね。



メリーゴーランド研究所にて

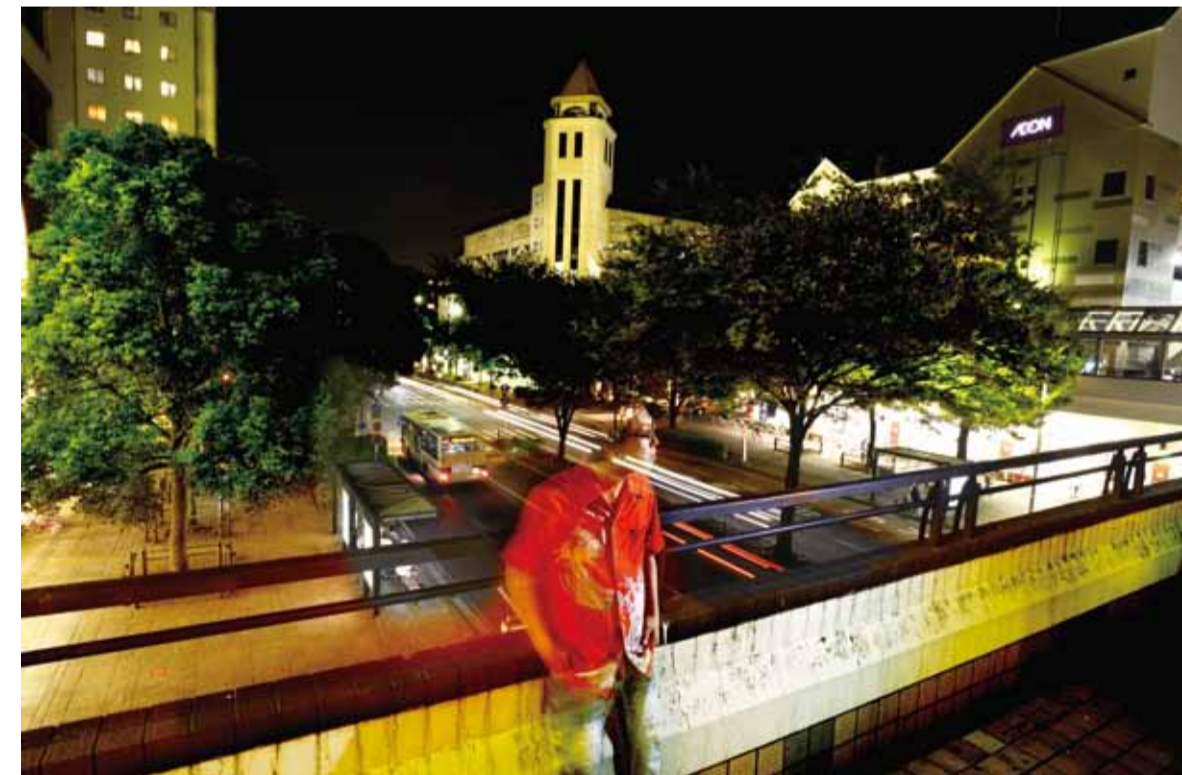
きっかけは眩暈だったんですけどねえ……導かれたのかな(笑)。動物が好きなんです。壁に描いてある絵にも動物たちが隠れているので、探してみてください。

——本当に風通しのいい素敵な場所ですね。可愛らしい猫も……。

野良猫なんですけど、赤ちゃんが4匹いて成長が楽しみです。近所の子どもたちも放課後に遊びに来ますよ。美術教室も週1回やってます。この机のアクリ

ルの絵も彼らが描いたものです。子どもって甲高い声がいいですよ。いい周波数という感じで、いい音です。

**テラミチ健一郎 Kenichiro Teramichi**  
1969年生まれ・射手座・横浜出身・メリーゴーランド研究所 所長/舞台美術や展示企画会社を経て1999年独立。主に企業の販促物や舞台・展示会などの美術を手掛ける。その経験を活かし、2009年メリーゴーランド研究所を設立。各地に笑顔を届けるため、移動式メリーゴーランドの研究開発をはじめ。2012年に完成後は各種美術制作のかたわら、メリーゴーランドの巡業を行う。



マイカル本牧時代に建てられた中心部のペDESTリアンデッキにて

## 2 大谷能生

『本牧の夜2014』

→会場：旧マイカル松竹シネマズ本牧

本牧だけじゃなくて、新山下のベイホール、山下公園側のケーブ・コッド、瑞穂埠頭のスターダスト(最近、ゴールデンボンバーが「女々しくて」のPV撮影で使っていた)などの店は、なぜかみなドライブの思い出と結びついていて、とってまっちゃう。本牧の夜に20年前の記憶を重ね、20年たっても、なにか特別にドラマチックな出来事があったら

横浜で暮らし始めたのは1991年の春からだから、そのころのマイカル本牧はまだまだ華やかで、大通りをまたいで2つの商業施設をつなぐ空中回廊と、噴水のあるテラス、凝った作りの階段で出入りするグッチやヴェルサーチなど、麦田のトンネルをくぐって、がらんとした道路をクルマで飛ばして、ちょっと不安になるくらい走ったところに突然、ほとんどド

ラクエ1の「ロトの街」的にあらわれるこのショッピング・モールには、特に用事もなくその頃の友達と何回も来ている。来るときはだいたいクルマで、そう、90年代の前半、ヨコハマの大学生の多くはマイカーを持っていて、いまでは夢や幻のような思い出だが、友達が一夏バイトして買った中古のクーペの助手席に乗って、本牧はドライブして来る街だった。

たわけじゃない。だいたい男2,3人で、好きな音楽をかけながらクルマを走らせていただけのことだ。ナンパするのも面倒くさく、第一、みんなそんなにカネがあった訳でもない。最後には誰かの下宿に転がり込んで朝方まで酒を飲み、いない友人の留守電にいたずら電話をかけ、適当にビデオを見て、雑魚寝して朝方そのまま学校かバイトに行く、といった感じだっ

ただろう。ザッツ90年代。  
今回、本牧には自転車に乗った。自宅から25分ほどか。まだテラスの噴水は稼働中だが、あたりの雰囲気はずいぶんと違っている。すでにトンネル脇のシュガージャックはなくなり、廃車庫を使っていたパー・ジャックナイフがあったのはどの曲がり角の先だったのだろうか。本牧の夜に20年前の記憶を重ね、20年たっても、なにか特別にドラマチックな出来事があったら

**大谷能生 Yoshio Otani**  
音楽家・批評家。1972年生まれ。菊地成孔との共著『憂鬱と官能を教えた学校』や、単著『美しい音楽』『散文世界の散漫な散策 二〇世紀の批評を読む』を上梓するなど、積極的に執筆活動を行う。その傍ら、音楽家としても精力的に活動し、sim、masなど多くのグループに参加。ソロ・アルバム『河岸忘日抄』より、『舞台のための音楽2』をHEADZから、『Jazz Abstractions』をBlackSmokerからリリース。最新作は『マムとジブシーと大谷能生』(EWE)。演劇やコンテンポラリー・ダンスの舞台などを始め、さまざまなセッションで演奏を行っている。

# 3 伊藤有壱

ネオクラフトアニメーション「HARBORTALE（ハーバートイル）」上映

「間門小学校アニメーションワークショップ成果発表」

東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻有志「アニメーション・イン・ザ・シティ」

→会場：本牧通り各所予定

本牧アートプロジェクト2014で、この地ならではのアニメーション3企画に関わらせていただいた。

まずは私のスタジオI.TOON（アイトゥーン）作品「HARBORTALE（ハーバートイル）」。18分のショートアニメーションはなんと完成までに5年の歳月がかかった。手触り感あふれるクラフト素材で作られたパペットが毎秒24回緻密に駒撮りを重ねて動き出す生命観が魅力だ。私はNHK Eテレ「ニャッキ!」の作者として20年近くクレイと関わり、2006年以来都内から横浜に拠点を移し創作を続けている。パペットアニメーションの聖地チェコZLIN国際映画祭でも最優秀アニメーション賞／観客賞受賞など高く評価された「港街」の物語がいよいよ本牧で初上映されるのが楽しみだ。

同時に、私が指導した間門小学校3年生達によるクレイアニメーションワークショップの完成映像が発表される。35人×3クラスを対象に行われた特別授業で、子供達はイキイキと「動き」を描くアニメーションアーティストになった! 瑞々しい感性による動くイメージ達をぜひご覧いただきたい。

『アニメーション・イン・ザ・シティ』は東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻・助教の村上寛光と修了生・池亜佐美、川口恵理、村本咲によるアニメーションの屋外上映プロジェクトである。従来のイメージを覆すショートフィルムとしての「アニメーション」を生み出し続ける同専攻は2008年に設立され、横浜万国橋キャンパスから世界に才能を発信している。夜の本牧を舞台にどんなイリュージョンが展開するかじつに興味深い。



「HARBORTALE」の一場面



伊藤有壱と間門小学校3年生の子どもたち



「アニメーション・イン・ザ・シティ」の参加作家、池亜佐美の作品

伊藤有壱 Yuichi Ito

アニメーションディレクター。NHK Eテレ「ニャッキ!」はじめ、クレイを中心にあらゆる技法を駆使してTV、ミュージックビデオ、劇場映画、等多方面で活動。横浜をモデルにしたネオクラフトアニメーション「HARBORTALE」はチェコZLIN FILM FESTIVAL 最優秀アニメーション&観客賞受賞。ほかにミスタードーナツ「ボンデライオン」、宇多田ヒカル「TRAVELING」、MVアニメーションパート、みんなのうた「グラスホッパー物語」等。日本アニメーション協会理事。東京藝術大学大学院映像研究科 教授。

# 4

## ジェコ・シオンポ

新作公演

→会場：港湾エリア



ジェコ・シオンポ Jecko Siampo

1975年ジャヤブラ生まれ。幼少よりインドネシアの伝統舞踊を学ぶ。1999年米国ポートランドにてヒップホップを学び、2002年ドイツのFolkwang Dance Studioに留学。パプア民族のダンスや日常の身振り・動物の仕草を素材にしてヒップホップと融合させたアニマルポップという新しい振付言語を作り出し、インドネシアを代表するダンサーとして活躍。マレーシア、デンマーク、オーストラリア、アメリカ、フランス、台湾、香港、韓国、ロシア、日本など世界各国で作品が上演されている。

武藤大祐 Daisuke Muto

1975年生まれ。ダンス批評家。群馬県立女子大学文学部准教授(美学、ダンス史・理論)。現在の研究課題は、20世紀のアジアを軸とするダンスのグローバル・ヒストリー、および新しい振付の理論。共著『パレエとダンスの歴史』(平凡社/2012年)など。韓国のダンス月刊誌『MOJMM』で時評を連載。Indonesian Dance Festival(ジャカルタ)共同キュレーター。振付作品に「来る、きつと来る」(2013)がある。



ジェコ・シオンポの舞台となる港湾エリア

野性動物、ヒップホップ、デジタル技術——ふつうなら出会わないはずのものが、ジェコ・シオンポの体の中で溶けあっている。

13,000を超える島々からなる大国インドネシア、横幅でいえば「ヨーロッパ」くらいある広大な群島の、東の果てのパプア。鬱蒼と茂る原生林には人を丸飲みにする巨大ヘビ、平原にはカンガルーも身近に暮らすという、そういう土地でジェコは生まれ、育ち、やがて首都ジャカルタでヒップホップに出会った。

最初は「何の動物のマネなのか?」と思っただけだが、すぐにパプアの伝統舞踊との接点を見つけ、両者をミックスし

て独自のスタイル「アニマル・ポップ」を生み出した。今ではダンス好きなジャカルタの若者たち、子どもたちのアニキ的存在であり、テレビのダンス番組の審査員までやっている。

ジェコはこれまで何度か来日していて、そのたびに日本の観客を呆然とさせてきた。リズムカルなステップ、力強い動き、そして瞬間的なギャグが、異様に細かく刻み込まれ、目まぐるしくカットアップされる。それなりにせわしない日本に暮らすわれわれではあるが、ついボカんと口を開けて見入ってしまうほどの高速度りなのだ。まさに「動物的本能」と「デジタルな編集センス」がガッチリと手を組

み、観客の方へ押し寄せてくる。こんなダンスを作れる人は他にいない。

今回、ジェコは本牧の国際埠頭を起点とした特殊な空間でダンスをくり広げる。18万トン級の大型タンカーが着岸し、運び込まれた石炭や塩が数階建てのビルほどの高さまで積み上げられ、文字通りの山脈を形成するスペクタクル感に満ちたロケーション。そして世界各地の港に通じるネットワークとしての海の広がり。人間のスケールを軽く超えた、重厚かつ壮大な光景の中で、人・モノ・情報の「動き」をテーマにしたダンスをジェコは構想している。

文：武藤大祐（ドラマトゥルク）

# 5 藤原ちから×石神夏希

BricolaQ『演劇クエスト・本牧ブルース編』

→会場：本牧エリア一帯

石神 本牧って、時代ごとにガラッとイメージが変わってますよね。昔は漁村で、米軍駐留時代があって、マイカルができて……。その歴史に因果関係があるわけじゃなくて、その都度の誰かがつくった非現実的なファンタジーと折り合いながらできてきた町なんだと感じます。

藤原 一方で、昔ながらの地形に拠るところも大きいですね。山と海に囲まれた要塞みたいになっていて、出入り口も

限られている。だからその風や水や人の流れも面白い。尾根があって、路地があって、その角を曲がると呑み屋があって……とか。

石神 ままならないっていうか、計画とか地形とか、自分の好きにできないものとの攻防で町ができていく。だからこそ、ここに生きている人たち自身が、自分なりの立ち方とか歩き方を探さなきゃいけないような、ざわざわするものがあると思うんです。そのざわざわの先を知りたい。

……今回、バスを使うことでそこに少し近づけるかもしれない。バスって、ここに住んでる人たちの足だから。

藤原 バスは人の流れに合わせてダイヤやコースが組まれていて、最初は複雑な暗号みたいだけど、読み解きさえすれば縦横無尽に移動できるんですね。乗り放題の一日乗車券で、ぜひダイナミックに移動してください。本牧の町全部が舞台です。そしてここで生まれ育った人もいますし、移住してきた人も、通ってくる人

もいる。その生活の中にどんなドラマが眠っているか、感じてほしい。今回、石神さんにテキストを書いてもらうのも楽しみです。

石神 まずは、藤原さんが町をどんな視点で見ているか。そこに乗ってから書いてみたいと思っています。前回の三浦半島での「演劇クエスト」を私なりに観客として体験してみて、勝手に号泣するポイントもあったから、参加する人はぜひ、ひとりで体験してほしいな。

藤原 恋人や家族や友達と一緒に来て、バラバラに行動して後で再合流するのも面白いかも。日没したら冒険はいったん終わりです。知らない参加者同士で本牧の夜を楽しむのもいいかもですね。

藤原ちから Chikara Fujiwara

編集者、批評家。BricolaQ主宰。1977年高知県生まれ、横浜在住。武蔵野美術大学広報誌「maleaf」、世田谷パブリックアター「キャロム」などを編集。主に舞台芸術について様々な記事を執筆。共編著に『〈建築〉としてのブックガイド』。共著に『演劇最強論』。2014年4月、演劇センターFの立ち上げに関わる。また、ゲームブックを手にも都市や半島を遊歩する「演劇クエスト」を各地で創作している。

石神夏希 Natsuki Ishigami

1980年生まれ。1999年より演劇集団「ペニン結構設計」を中心に劇作家として活動。2002年『東京の米』にて第2回かながわ戯曲賞最優秀賞受賞。近年はテナントビル、住宅、商店街などでの演劇上演、地域を軸にしたアートプロジェクトの企画や滞在制作を行う。また住宅・建築を主なフィールドに建物や場所に関するリサーチ・執筆・企画など、「場所」と「物語」を行き来しながら活動している。黄金町バザール2013出展、本牧アートプロジェクト2013参加、北九州市小倉「Fantastic Arcade Project」ディレクター(2014)など。

### Column

#### 本牧アートプロジェクト2014の歩き方

◎みなとみらいや中華街のさらに南に位置する横浜・本牧。初めて訪れる人は、まず横浜駅や石川町駅から市営バスで南を目指そう（p7のMAPを参照）。乗車の際に、乗り放題の**1日乗車券**（600円）を運転手さんから買っておくとうりだ（バスでも購入可能）。



◎101、105、106系統のバスは、山手トンネルを越え、本牧通りを走っていく。やがて**停留所「和田山口」で下車**したら、メイン会場となる**旧マイカル松竹シネマズ本牧**までは歩いてすぐ。ここはかつて、横浜の人々に親しまれた映画館だった場所。今回、当プロジェクトのために特別に開放される。



◎館内には臨時のカフェがオープンしており、好きにくつろぐことができる。クレイアニメで知られる**伊藤有壱**の短編作品のほか、伊藤が間門小学校の生徒たちとつくるアニメーションなどを1日4回上映している。



◎11～13時までは遊歩型ツアーパフォーマンス「**演劇クエスト・本牧ブルース編**」のスタート地点にもなっている。「冒険の書」（有料キット1500円）を手にした参加者はそれぞれ自由に街へと出発し、バスを乗りこなしながら、丘と海に挟まれた本牧エリアの知られざる魅力を探しにいくことになる。

◎メイン会場から徒歩数分のせせらぎ公園には「**メリーゴーランド**」が出現。本牧の夕暮れをファンタジックに彩るだろう。また本牧通りの各所では、東京藝術大学大学院映像研究科の作家たちによる様々な**アニメーション作品**が展開。商店街での買い物や食事などと合わせて楽しもう。



◎また本牧アートプロジェクトは今回、港湾エリアへも進出する。インドネシアから来日する**ジェコ・シオンポ**の**新作ダンス**は、港湾のダイナミックな景色を舞台とするサイトスペシフィックな作品になるだろう（こちらは完全予約制なのでお早めに！2500円）。



◎各企画を堪能したら、夜は、再びメイン会場へ。19時から批評家・音楽家の**大谷能生**が**キュレーションするライブ企画「本牧の夜2014」**が開催される(2500円〜)。旧・映画館を舞台に、毎夜、異なるアーティストが織り成す映像・音楽・ダンスの饗宴。ジャンルを超えたアートの力を目撃してほしい。



◎なお、横浜行きの最終バス(105系統)は22:44(土)、22:10(日・祝)。終バスを逃した場合は……いっそのこと夜の街で一杯飲んでから、タクシーでJR山手駅か石川町駅に向かう手も……？



# Program

## 会場：旧マイカル松竹シネマズ本牧

本牧アートプロジェクト2014 総合案内&メイン会場。マイカル本牧に1996年に開場したシネマコンプレックス。2004年に「MOVIX本牧」としてリニューアルされ、2011年に閉館。8スクリーン、1,239席を要する巨大スペースはスクリーンや客席は撤去されたものの、建築当時のままに残っている。今回「本牧アートプロジェクト2014」のために、特別に解放される。

#### Café Bar HONMOKU CINEMAS

旧マイカル松竹シネマズ本牧にて、本プロジェクト開催期間中に、特設カフェ・バーがオープン。地元店のフード、ドリンクをお楽しみください。
出店予定：カナリア カフェ、Le TraiteurOguro (ル・トレットゥール オグロ)、他



## 伊藤有孝／アニメーション上映企画

11月22日(土)・23日(日)・24日(月・祝)
11:00 / 13:00 / 15:00 / 17:00 (上映時間：約30分)
会場：旧マイカル松竹シネマズ本牧 3Fシアター
〈入場無料〉

アニメーションディレクター伊藤有孝の上映企画。拠点スタジオI.TOONが制作し、チェコZLIN国際映画祭 Best Animation賞／観客賞はじめ、国内外で高く評価されたオリジナル短編アニメーション「HARBORTALE (ハーバートイル)」を上映。また、11月に伊藤の指導のもとで本牧・間門小学校の子どもたちが作成するショートアニメーション、本プロジェクト「アニメーション・イン・ザ・シティ」に参加する東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻修士生など有志の出演作品をダイジェストで紹介します。

- ネオクラフトアニメーション「HARBORTALE (ハーバートイル)」上映
- 「間門小学校アニメーションワークショップ成果発表」
- 東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻有志「アニメーション・イン・ザ・シティ」

企画協力：I.TOON Ltd. /協力：横浜市立間門小学校、東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻

## 本牧の夜 2014

11月22日(土)・23日(日)・24日(月・祝)
19:00開演
会場：旧マイカル松竹シネマズ本牧 3Fホワイエ、他
料金：各日のプログラム欄をご覧ください(スタンディング)

大谷能生キュレーションによる3日間のライブ企画。初日は菊地成孔と大谷能生がプレゼンテーションを勧めるダンス・パーティ「HOTHOUSE」が本牧に登場！日本を代表するリンディホップ・インストラクター、アモーレ&ルルによるステップレッスンからはじまり、DJとビバップの生演奏でカップルダンス/ハマジルを、初心者もベテランも十二分に楽しめる一夜です。2日目はす

でにスクリーンも客席も取り外された上映場所に、映像と音楽とダンスがふたたびあやしく立ち上がるライブ・セッション。3日目はアルバム「Smart Citizen」も好評な吉田ヨウヘイGroupと映像作家・関山雄太によるスペシャルライブを行います。

【11月22日】HOTHOUSE
料金：単券：前売3,500円/当日4,000円 +1drink (500円) /ペア券：6,000円(前売のみ) +2drink (1,000円)
出演 MC：菊地成孔 & 大谷能生 (JAZZ DOMMUNISTERS) / DJ：NADJA / DANCERS：LINDY HOP INSTRUCTOR
アモーレ&ルル (Swing Gigoro)、BEBOP FUSION DANCE IZM (STAX GROOVE) / BAND：REAL BOPPERS FROM TOKYO [坪口昌恭 (p)、永見寿久 (b)、藤井信雄 (ds)、津上研太 (sax)、類家心平 (tp)]



【11月23日】ライブ・セッション
料金：前売2,500円/当日3,000円 +1drink (500円)
出演：Rokapenis (映像)×大谷能生 (sax,CDJ,electronics)×吉田アミ(voice)×鈴木ユキオ(Dance)

【11月24日】吉田ヨウヘイgroup
料金：前売2,500円/当日3,000円 +1drink (500円)
出演：吉田ヨウヘイGroup /映像：関山雄太
◎映像インスタレーション+セッション(入場無料)
14:00 / 16:00



キュレーション：大谷能生
特別協賛：株式会社エスタディオホールディングス



### 会場：本牧エリアー帯

### BricolaQ「演劇クエスト・本牧ブルース編」

11月22日(土)・23日(日)・24日(月・祝)
受付：11:00-13:00 冒険終了：17:00
集合場所：旧マイカル松竹シネマズ本牧 2F 総合案内
〈参加無料〉※参加のためのキット1,500円を当日お支払いください。
※別途、バスの日乗車券(600円)を各自で購入

「冒険の書」を片手に、市営バスを主な移動手段として本牧エリアをめぐる遊歩型ツアーパフォーマンス。何と出会うかは、参加者である「あなた」の感性と運次第。海と丘にはさまれた横浜・本牧に眠るドラマを、あなた自身の手で探してみてください。初めてこの町を訪れる人はもちろん、ここで生まれ育った人も未知の何かを発見する(かもしれない)プロジェクトです。この町に息づいている空気を感じるためにも、単独でのプレイを推奨します。あらかじめ、車内で販売されている市営バスの日乗車券(600円/ファミリー乗車券1000円)をご購入のうえ、受付時間内に集合場所にお越しください(小学生以下は要保護者同伴)。

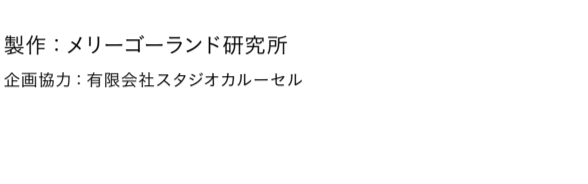
設計・編集：藤原ちから (BricolaQ) /テキスト：石神夏希(ペビン結構設計) /ドラマトゥルク：落雅季子(BricolaQ) /プロデュース：宮永琢生(ZuQnZ)
共催：本牧地区センター

## 会場：本牧まちなか

### メリーゴーランドがやってきた！

11月22日(土)・23日(日)・24日(月・祝)
11:00-19:00
会場：本牧せせらぎ公園 〈入場無料〉

本牧で生まれ世界へ発信する移動式メリーゴーランドが、メインストリート沿いに突如出現。本牧アートプロジェクトのシンボルとして、今回は本牧の街中の公園が幻想的な場所として記憶される体験です。



### アニメーション・イン・ザ・シティ

11月22日(土)・23日(日)・24日(月・祝)
時間はwebsiteにてお知らせします。
会場：本牧通り各所予定 〈入場無料〉

本牧の街の様々な場所に、様々なアニメーションの作品を展示します。普段、見慣れた風景に現れるアニメーションにより、別の風景へと変容させます。

参加作家：池亜佐美、川口恵里、村本 咲、村上寛光
企画協力：東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻



### 会場：港湾エリア

### ジェコ・シオンポ 新作

11月22日(土)・23日(日)・24日(月・祝)
13:00 / 16:00開演
集合場所：JR根岸線「根岸駅」
※詳細は、予約完了メールにてお知らせします。
料金：2,500円(予約のみ) ※各回25名定員

インドネシアの振付家・ダンサー、ジェコ・シオンポによる体験型のアートパフォーマンス。パプアのダンス文化とジャカルタのサブカルチャーであるヒップホップを自身の振付の世界に持ち込み、アジアで最も注目されるアーティストのひとり。物流拠点が集まる港湾エリアを舞台に、重厚かつ壮大な光景の中で、人・モノ・情報の「動き」をテーマにしたダンスを繰り広げます。観客は、集合場所の「根岸駅」からマイクロバスに乗車。本牧の歴史を体感しながら、街に存在するさまざまな要素に身体を重ね合わせ、観客の存在自体もパフォーマンスの一部として取り込むパフォーマンスを予定。

コンセプト・振付：ジェコ・シオンポ [インドネシア] /ドラマトゥルク：武藤大祐
助成：国際交流基金アジアセンター/特別協賛：国際埠頭株式会社

<b>チケット情報</b>
予約方法：特設 web の予約フォームからの申込
<b>honmoku-art.jp</b>
◎半券割引：観劇済みのチケット半券または演劇クエストの有料キットを当日受付にてご提示いただくと、500円をキャッシュバックいたします(1枚につき1回の公演に有効)
◎ <b>無料プログラムのご案内</b>
◎「演劇クエスト・本牧ブルース編」は、参加にあたっての有料キットを当日お求めください。
◎「アニメーション・イン・ザ・シティ」の上映会場及び時間は、web サイトをご確認ください。

# Time Table

	会場	11月22日	11月23日	11月24日
<b>A</b>	<b>メリーゴーランドがやってきた！</b>	本牧せせらぎ公園	11:00—19:00	11:00—19:00
<b>B</b>	<b>演劇クエスト・本牧ブルース編</b>	本牧エリアー帯 ※	受付時間 11:00—13:00 (～17:00)	受付時間 11:00—13:00 (～17:00)
<b>C</b>	<b>伊藤有孝／アニメーション上映企画</b>	旧マイカル松竹シネマズ本牧	11:00 / 13:00 / 15:00 / 17:00	11:00 / 13:00 / 15:00 / 17:00
<b>D</b>	<b>ジェコ・シオンポ 新作</b>	港湾エリア (JR「根岸駅」集合)	13:00 / 16:00	13:00 / 16:00
<b>E</b>	<b>アニメーション・イン・ザ・シティ</b>	本牧エリアまちなか	夕刻～ (web にて告知)	夕刻～ (web にて告知)
<b>F</b>	<b>本牧の夜 2014</b>	旧マイカル松竹シネマズ本牧	19:00	19:00
<b>G</b>	<b>映像インスタレーション(本牧の夜 2014)</b>	旧マイカル松竹シネマズ本牧		14:00 / 16:00

※演劇クエスト・本牧ブルース編の受付は旧マイカル松竹シネマズ本牧になります。

# Map



**E** の開催場所は **WEB** で告知いたします。



<b>主催</b>	NPO 法人 Offsite Dance Project
<b>助成</b>	横浜市地域文化サポート事業「ヨコハマアートサイト 2014」、国際交流基金アジアセンター
<b>共催</b>	本牧地区センター
<b>撮影協力</b>	MOONEYES Area-1/MOON Cafe
<b>企画協力</b>	有限会社スタジオオカルセル、I.TOON Ltd.、東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻
<b>後援</b>	横浜市文化観光局
<b>特別協賛</b>	株式会社エスタディオホールディングス、国際埠頭株式会社
<b>協賛</b>	イオン本牧店、大谷不動産、おおたに家電、カナリアカフェ、喜月堂本店、天然ダンス工房、フレッシュビーンズ本牧珈琲、本牧郵便社、香港路的!沙龍、本牧玉家、満寿屋、美濃屋あられ製造本舗、横浜君嶋屋、横浜ビール、横浜本生堂、横浜港大さん橋国際客船ターミナル、横浜ロイヤルホテル、Hello! cafe、kuusen、McCoy's Country Store
<b>機材協力</b>	LUF TZUG、DOTWORKS
<b>協力</b>	横浜市交通局、横浜市立間門小学校、天然ダンス工房、フィールズ プランニング
<b>STAFF</b>	企画・制作：本牧アートプロジェクト実行委員会 テクニカル・ディレクター：河内 崇 (LUF TZUG) /音響：稲荷森健/照明：中能 良 (DOTWORKS) 本牧タイムズ アートディレクション：阿部太一/写真：森日出夫/編集：藤原ちから、落雅季子 映像ドキュメンテーション：藤井 光 /記録写真：森日出夫/ウェブデザイン：加藤和也 制作：笠原彰二/プロデューサー：岡崎松志
<b>プレゼント</b>	◎三溪園連携企画/福業まり 幻灯インスタレーション 9月5日(金)～9日(火) @ 三溪園 旧地明寺本堂 ◎本牧地区センター連携企画/ワークショップ「本牧のお宮エクスト!」 10月12日(日) @ 本牧地区センター ◎本牧かぼちゃまつり連携企画/ワークショップ&パフォーマンス「本牧ロコモーション」 10月19日(日)・25日(土) @ 本牧地区センター及び周辺

<b>会場</b>
◎旧マイカル松竹シネマズ本牧／本牧アートプロジェクト 2014 総合案内(11/22-24 限定特設会場) 〒231-0821 横浜市中区本牧原 14-1 本牧 6 番街 2F /市営バス「和田山口」下車
◎本牧せせらぎ公園 〒231-0804 中区本牧宮原 5-1 /市営バス「本牧宮原」下車

**お問合せ**  
本牧アートプロジェクト 2013 事務局(NPO 法人 Offsite Dance Project 内)  
Tel.090-6346-5820 Fax.045-228-9270  
E-mail:info@honmoku-art.jp

# Sponsors

わたしたちは、本牧アートプロジェクト2014の無料プログラム及び公共空間におけるオープンプログラムを応援しています。

## イオン 本牧店

おうちでイオン  
イオンネットスーパー イオンの即日便イオン

〒231-0821 横浜市中区本牧原 7-1 Tel: 045-624-2121  
http://www.aeon.jp/aeon/honmoku



YOKOHAMA OSANBASHI

### 鉄棧橋竣工120周年

横浜港大さん橋国際客船ターミナル

指定管理者 相鉄企業株式会社  
〒231-0002 横浜市中区海岸通 1-1-4 Tel: 045-211-2304  
http://www.osanbashi.com/

株式会社エスタディオホールディングス

### 感動を創造する 総合エンターテインメント企業



〒231-0013 横浜市中区住吉町 4-45-1 横浜新聞内ビル  
Tel.045-662-1521 (代表) http://www.estadio.jp/

- ① 不動産売買・賃貸管理
- ② 顧問弁護士・税理士・司法書士の紹介
- ③ 郷土資料閲覧のワンストップサービス

### イオン本牧3番街 大谷不動産

〒231-0821 横浜市中区本牧原 8-1-104  
Tel: 045-621-1234  
http://www.aeon.jp/aeon/honmoku/

## おおたに かでん

生活にアートをとりいれよう。  
街の電気屋さん  
アートプロジェクト

〒231-0849 横浜市中区麦田町 4-107 Tel: 045-622-9084  
HP: http://www3.ocn.ne.jp/~ohtani05/  
ブログ (おたにかでんの営業日誌):  
http://blog.goo.ne.jp/ohtanikaden

### 国際埠頭株式会社

〒231-0814 横浜市中区豊浦町 3  
Tel.045-625-7000  
http://www.kokusaifuto.co.jp/



製麺・和菓子 満寿屋

〒231-0843 横浜市中区本郷町 2-53  
Tel: 045-622-8898  
http://www.masuya-net.com



(株)美濃屋あられ製造本舗

〒231-0802 横浜市中区小港町 1-6  
Tel: 045-621-4488  
http://www.minoya-arare.com/



本牧 玉家

〒231-0824 横浜市中区本牧三之谷 1-14  
Tel: 045-621-0407  
http://honmoku-tamaya.com/

日中友好食処  
**本牧 玉家**  
和食/地魚/中華

### カナリアカフェ

〒231-0806 横浜市中区本牧町 1-156  
Tel: 045-263-8727  
http://canarycafe045.com



### フレッシュビーンズ 本牧珈琲

〒231-0825 横浜市中区本牧間門 25-11  
プロミネンス本牧 102  
Tel/Fax: 045-621-6902  
http://honmokucoffee.blog.fc2.com/



### kuusen

〒231-0849 横浜市中区麦田町 2-42  
Tel: 045-263-6323  
http://www.kuusen.net



### 香港路的! 沙龍

〒231-0846 横浜市中区大和町 2-48  
Tel: 090-7404-1065  
www.facebook.com/hongkongro.S?fref=ts



### 本牧 Hello!cafe

〒231-0825 横浜市中区本牧間門 1-7  
Tel: 045-263-6404  
http://honmoku.hello-cafe.com



### 横浜ロイヤルホテル

〒231-0806 横浜市中区本牧町 2-319  
Tel: 045-622-8917  
http://www.royalhotel.co.jp/



### McCoy's Country Store

〒231-0825 横浜市中区本牧間門 2-8  
Tel: 045-263-9252  
http://gardenflag.ocnk.net/




### 横浜本空堂

〒231-0842 横浜市中区上野町 2-66  
Tel: 045-228-9112  
Fax: 045-228-9113  
http://www.honmokudo.com/

無垢一枚板の店  
**横浜本空堂**

### 本牧葬儀社 本牧ホール

〒231-0806 横浜市中区本牧町 2-323  
Tel: 0120-4580-76  
(フリーダイヤルよこはまなむ)  
http://www.honmoku.co.jp/



### 横浜君嶋屋

〒232-0012 横浜南区南吉田町 3-30  
Tel: 045-251-6880  
http://www.kimijimaya.co.jp

YOKOHAMA  KIMIJIMAYA  
SAKE & WINE  
ワイン・日本酒・焼酎 専門店

### 株式会社 横浜ビール

〒231-0013 横浜市中区住吉町 6-68-1  
横浜関内地所ビル  
Tel: 045-212-9633  
http://www.yokohamabeer.com



### 天然ダンス工房

〒231-0846 横浜市中区大和町 2-33-2  
山手アートプラットホーム  
Tel: 045-777-9664 (2F スタジオ)  
http://tdk-dance.jimdo.com/



## サポーターズ募集

◎協カショップ  
「本牧アートプロジェクト2014」に会場したお客様にサービスをご提供いただける店舗を募集します。会期中、来場者に店舗情報を紹介するとともに、専用バスをお渡しして、街を回遊しやすい環境をつくりまします。webサイトの参加要項をご確認のうえ、エントリーをお願いします。受付開始: 10月20日(月)~11月10日(月)/参加費無料

◎ボランティアスタッフ  
「本牧アートプロジェクト2014」を一緒に盛り上げてくださるボランティアスタッフを広く募集しています。お客様の誘導・案内、イベントの準備・補助などの運営サポートが主です。奮ってご参加ください。webサイトの参加要項をご確認のうえ、ご登録をお願いします。期間: 11月21日(金)~24日(月・祝)

### 編集後記

アメリカの街角にあるフリーペーパーをイメージした「HONMOKU TIMES」。創刊にあたって、横浜を撮り続けている写真家・森日出夫さんと街をめぐった。表紙の車は、1958年のフォード サンダーバード。本牧に米軍のベースキャンプがあった頃、街の名称Area-1を由来とするアメ文化の発信地での撮影。本紙を通して、さまざまな本牧の街の表情、そして「本牧アートプロジェクト2014」に参加するアーティスト/クリエイターの声が伝わればと思う。今回、行政機関を始め、地元の市民利用施設や企業、店舗からたくさんのご支援・ご協力をいただいた。この場を借りて深く感謝するとともに、「本牧アートプロジェクト2014」で、世代や地域を越えて人々が繋がり、新たな対話が生まれるよう願っている。みなさまのご来場をお待ちしています!(編集チーム一同)

**HONMOKU TIMES 01**  
2015年10月15日発行  
発行: NPO法人 Offsite Dance Project  
〒231-0834 横浜市中区池袋10-1-202  
Tel. 090-6346-5820 / Fax. 045-877-7838 / E-mail: info@offsite-dance.jp  
URL: http://www.offsite-dance.jp